

『人間の土地』

abuuuu

好きな女の子の裸を想像する。
ふっくらした体型がなんともいえない。
メッシの技術を持って高校サッカーの大会に出る、
と想像する。
人気者間違いなし。
くだらないと思える想像を日々繰り返す。

自分が想像するように、
ゴリラやブタは好きなメスの裸を想像することはできるのか？

．．．
たぶんできないだろうな、人間以外には。
まあゴリラやブタの場合、もともと裸だったりするんだけど。

サンテグジュペリはこう言う。
“人間であるということは、自分には関係がないと思われるような不幸な出来事に対して忸怩たることだ”と。

なるほど、人間には想像力がある。
好きな女の子の裸を頭に描くことも、アフリカで飢餓に苦しむ子供たちを思い浮かべることもできる。
遠い場所で起きている不幸を思い、自分のことのように涙し、なにかできないかと考え行動することも人間ならできるのだ。

サンテグジュペリはこうも言う。
“人間であるということは、自分の石をそこに据えながら、世界の建設に加担していると感じることだ”と。

ちょっとした行動が、世界を幸せにすることにつながる。
駐輪場の管理人さんの「おはよう」の一言は、自分の一日を少しだけハッピーにする。
給食のおばちゃんを作る昼食は学校のみんなを明るくする。
自分がそこにいることで、世界にちょっとした変化をもたらすのだ。

想像する。
家族、不幸に悲しむ人、未来、ときどき好きな女の子の裸も。
そして自分は世界の建設に加担していることを感じ、ちょっとでも笑顔の溢れる世界を作ろうと努力する。
人間であることに責任を感じ、人に優しくなれる一冊だった。